

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展

邂逅する写真たち モンゴルの100年前と今



2022.3.17 thu. - 5.31 tue.

会場：国立民族学博物館 特別展示館 主催：国立民族学博物館 協賛：在徳島モンゴル国名誉領事館
協力：国際モンゴル学会、モンゴル科学アカデミー、モンゴル国立公文書館、チンギスハーン博物館、ボグド・ハーン宮殿博物館、ザナバザル美術館 HIS Mongolia / ロシア地理学協会、
ロシア民族誌博物館、オーストラリア記念キツタ地方伝承博物館、ロシア科学アカデミー・ヒョートル大帝記念人類学民族学博物館（インスタカメラ）、ロシア科学アカデミー物質文化史研究所、
アメリカ議会図書館、アメリカ自然史博物館、オーストラリア文化史博物館、ウブサラ大学図書館、フィンランド文化遺産庁、デンマーク国立博物館、フランスオー・ド・セーヌ県立アルベル・カーン美術館、
ポーランド科学アカデミー、国立大学法人鳥取大学 乾燥地研究センター、国立大学法人鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構、総合地球環境学研究所 千里文化財団
後援：モンゴル国大統領府、駐日モンゴル国大使館、在大阪モンゴル国総領事館 日本モンゴル文化経済交流協会

右の女性（左）：1906年、S.ハルハーン撮影。左の女性（右）：2016年、B.ハルハーン撮影。©The Finnish Heritage Agency

Special Exhibition

100 Years of Mongolia Encounters through Photography

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel: 06-6876-2151 (代) <https://www.minpaku.ac.jp>



日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展

邂逅する写真たち モンゴルの100年前と今



2022.3.17 thu. - 5.31 tue.

会場：国立民族学博物館 特別展示館 主催：国立民族学博物館 協賛：在徳島モンゴル国名誉領事館
協力：国際モンゴル学会、モンゴル科学アカデミー、モンゴル国立公文書館、チンギスハーン博物館、ボグド・ハーン宮殿博物館、ザナバザル美術館 HIS Mongolia / ロシア地理学協会、
ロシア民族誌博物館、オーストラリア記念キツタ地方伝承博物館、ロシア科学アカデミー・ヒョートル大帝記念人類学民族学博物館（インスタカメラ）、ロシア科学アカデミー物質文化史研究所、
アメリカ議会図書館、アメリカ自然史博物館、オーストラリア文化史博物館、ウブサラ大学図書館、フィンランド文化遺産庁、デンマーク国立博物館、フランスオー・ド・セーヌ県立アルベル・カーン美術館、
ポーランド科学アカデミー、国立大学法人鳥取大学 乾燥地研究センター、国立大学法人鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構、総合地球環境学研究所 千里文化財団
後援：モンゴル国大統領府、駐日モンゴル国大使館、在大阪モンゴル国総領事館 日本モンゴル文化経済交流協会

右の女性（左）：1906年、S.ハルハーン撮影。左の女性（右）：2016年、B.ハルハーン撮影。©The Finnish Heritage Agency

Special Exhibition

100 Years of Mongolia Encounters through Photography

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel: 06-6876-2151 (代) <https://www.minpaku.ac.jp>

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology





写真で見る100年前と現代の

およそ100年前、欧米から多くの探検家たちが中央アジアを越えモンゴルに到達した。探検家たちは多くの写真を残し現在に伝えている。

100年前のウランバートルは、活仏にして皇帝、ボグド・ハーンが治める「聖なる都」だった。欧米人がウルガと呼んだこの都の中心には、活仏の黄金の宮殿が燦然と輝いていた。市場に行ってみると、騎馬でものを買う人びとの姿が見える。“エキゾチックな”遊牧民たちの姿が興味深い。

翻って現代、モンゴルの写真家たちも自らの社会を見つめ、写真で表現するようになった。モンゴルの首都ウランバートルは、人口150万人を越えるグローバル都市へと変貌を遂げた。首都の新しいシンボルは巨大なチンギス・ハーン像だ。首都の中心部には、高層ビル群が林立し、華やかな都市文化が花開く。その一方で都市の周縁部には、遊牧民の移動式テント、ゲルが密集する「ゲル地区」が広がっている。また、草原も変貌を遂げつつある。大草原と遊牧民は重要な観光資源である。その一方で、定住化が進んでおり、鉱山開発による環境汚染も懸念されている。こうした現代のモンゴルのリアルを気鋭の写真家B.インジャーシらが写し出す。100年前の探検家たちが残したモンゴルと現代の写真家がまなぞるモンゴル。本展示は、写真をめぐる100年の時空を越えた邂逅―出逢い―をテーマにしている。きっと新しいモンゴルの姿に出逢えるに違いない。

モンゴル―新しいモンゴル像との出逢いが待っている。

関連イベント イベントに関する詳細はホームページをご覧ください→ https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/23187

[みんなく映画会]

ヒップホップから見た現代モンゴル社会―映画『モンゴリアン・プリング』から考える

3月21日(月・祝) 13:30-16:30 **[要事前申込／参加無料 ※ただし会場参加は要展示観覧券]**

場所:みんなくインテリジェントホール(講堂) ※オンライン(ライブ配信)あり

上映作品:「モンゴリアン・プリング」2012年(日本語字幕あり)

トークショー

出演:B.ピンクス(上映作品監督)、ジェニー(ラッパー)、ハンガー(ラッパー)、川瀬慈 司会:島村一平

[友の会講演会]

モンゴルとSDGs

4月2日(土) 13:30-15:00 **[要事前申込／会員無料、一般500円]**

場所:みんなくインテリジェントホール(講堂) ※オンライン(ライブ配信)あり。ただし一般参加は会場のみ。

講師:小長谷有紀(本館 客員教授、日本学術振興会 監事)、山極壽一(総合地球環境学研究所 所長)

[研究公演]

口承文芸から現代詩、そしてヒップホップへ―モンゴルの韻踏み文化

4月9日(土) 13:30-15:45 **[要事前申込／参加無料 ※ただし会場参加は要展示観覧券]**

場所:みんなくインテリジェントホール(講堂) ※オンライン(ライブ配信)あり

出演:ソルバラム(俳優)、Desant(ラッパー)、NMN(ラッパー)、イヒ・タラガ(馬頭琴奏団) 司会:島村一平

[みんなく映画会]

大地の静脈

5月5日(木・祝) 13:30-16:00 **[要事前申込／要展示観覧券]**

場所:みんなくインテリジェントホール(講堂)

上映作品:「Veins of the World」2020年(日本語字幕あり)

解説:小長谷有紀 司会:島村一平

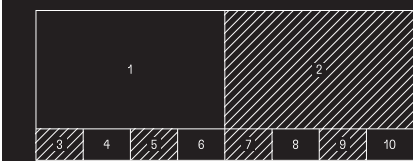
[みんなくゼミナール]

ドキュメンタリー写真家B. インジャーシが見た現代モンゴル

5月21日(土) 13:30-15:00 **[要事前申込／参加無料]**

場所:みんなくインテリジェントホール(講堂) ※オンライン(ライブ配信)あり

講師:B.インジャーシ(写真家)、港千尋(写真家・多摩美術大学 教授)、川瀬慈(本館 准教授) 司会:島村一平(本館 准教授)



1. チョコ・ナイトクラブ／2017年
 2. 草原の若者たち／1909年／S. パルシ撮影／フィンランド文化遺産庁民俗学画像コレクション ©The Finnish Heritage Agency
 3. オログ湖畔のモンゴル人たち／1926年／P.K.コスロフ撮影／ロシア地理学協会蔵 ©Russian Geographical Society
 4. 地下のアングラ・バーにて／2017年
 5. 野菜売る中国人とモンゴル人女性の客／1914年ごろ／チチャエフ氏のアルバムより From the Album of I. Chichaev
 6. 一生懸命に勉強する子どもたち／2017年
 7. ウルガの警備兵たち／1913年
 8. シャングリラ・モールにて／2021年
 9. 我が家で自転車に乗るロブサン・ヤンツァン／1913年ごろ
 10. 身長測定／2016年
- 1, 4, 6, 8, 10 B. インジャーシ撮影 ©Injinaash, Bor 7, 9, O. マーメン撮影 オスロ大学文化史博物館蔵 ©The Museum of Cultural History, University of Oslo

交通のご案内

[大阪モノレール]「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分

[バス] 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分

[乗用車] 万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。
最寄りの「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

※ 大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。※ 高校生以下の方、「国立民族学博物館友の会」会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんなくへ行くこととお申し出いただき、通行証をお受け取りください。※ 万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

●大阪モノレール「万博記念公園駅」とみんなくとの間のシャトルバスの運行については、決まり次第、ホームページでご案内いたします。

ご来館の
みなさまへ

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。またオンライン予約のご来館にご協力ください。



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel: 06-6876-2151(代) Fax: 06-6875-0401
<https://www.minpaku.ac.jp/>

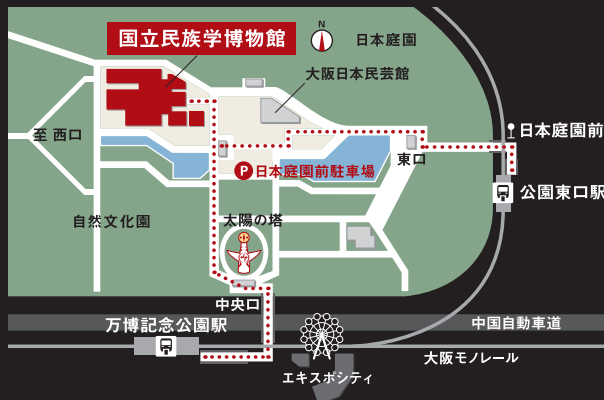
ご利用案内

[開館時間] 10:00～17:00(入館は16:30まで)

[休館日] 水曜日(ただし、5月4日(水)は開館)

[観覧料] 一般880円(600円)／大学生450円(250円)／高校生以下 無料

●()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等) *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程
●障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。●本館展示もご覧になれます。



関西から
文化力
POWER OF CULTURE